

施設整備に関わる基本方針1

高機能かつ多機能で変化に対応し得る弾力的な教育環境の整備

検討における視点・関連するキーワード

○新しい施設、地域の特色を生かした学校づくり

- ① 児童の可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現を目指す学校施設を整備します。
- ② 年齢の異なる児童が、学校行事や児童会等の様々な活動を通して、自然に異学年交流が生まれる学校施設を整備します。
- ③ 身近な自然を活かした体験活動ができる学校施設を整備します。
- ④ **これまでの学校のイメージ・印象を大切にしたい学校施設を整備します。**

- ・校歌にもあるハチの巣校舎や教室のレガシーの継承  
**(ハチの子・ハチの子タイム)**
- ・六角形の教室は、使いづらさ(机の配置)や、場所により室内環境の条件(暗い・寒い)が異なることが課題
- ・小規模校ならではの人との繋がり
- ・多摩川、染地山、染地池、校庭の樹木
- ・校庭の遊具(ブランコ・アスレチック)・芝生



学び

学び

○対話的・協働的な学習として多様な学習スタイルに対応した学校づくり

- ① 学校は、「教育の場」であるとともに児童が一日の多くを過ごす「生活の場」でもあることから、明るく、快適な生活環境となる学校施設を整備します。
- ② 児童一人ひとりの個性を伸ばし、考える力・課題を解決する力・表現する力を育むため、様々な教育内容や教育手法に適用し、時代の変化にも柔軟に対応できる学校施設を整備します。
- ③ 児童・生徒の学ぶ意欲を高めるため、集中して学習できる環境を確保するとともに、学校に関わる人たちが子どもたちの成長を感じとれる学校施設を整備します。
- ④ 読書・学習・情報収集としての役割がある図書室を、多様な場面で活用できる空間(ラーニングセンター)に設え、児童の知的好奇心を引き出し、課題の発見・解決に向けた学習に繋げられるような学習空間を確保する学校施設を整備します。
- ⑤ 将来の生徒数の増加に柔軟に対応可能な学校施設を整備します。

- ・令和の日本型学校教育  
全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現  
子供の学びに関するキーワード：個別最適な学び、協働的な学び、主体的・対話的で深い学び、ICTの活用
- ・子どもファーストの学校、教育環境の充実
- ・新しい時代の学びの実現  
学校は、教室と廊下それ以外の諸室で構成されているものという固定観念から脱し、学校施設全体を学びの場として捉え直す

○一人一台端末環境のもと、個別最適な学びの環境となる学校づくり

- ① 校舎全体で情報通信を可能にするなどICT環境を充実させ、必要な情報や知識を手に入れやすくし、多様化し高度化するこれからの情報社会に対応できる学校施設を整備します。
- ② 少人数学習やグループ学習等に柔軟に対応し、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう、**多目的に活用できるスペース等を配置し、自由度の高い学習環境を確保する学校施設を整備します。**
- ③ 児童の自主性を最大限に活かし、多様な表現活動ができる場として学習成果や自主活動の発表や展示ができる空間を確保する学校施設を整備します。

- ・GIGAスクール構想
- ・ICT機器を活用し、情報活用能力等の資質・能力を高める。
- ・ホール

学び

安全

環境

○だれもが安全・安心に利用できることに加え、防犯面にも配慮し、児童が良好な教育環境の中で学習できる学校づくり

- ① 児童の居場所づくりとして、ともに集い、学び、生活する学校施設を整備します。
- ② 児童を見守りやすい校舎レイアウトや安全な通路の確保のほか、門扉の設置など、防犯性が高く安心して学ぶことができる学校施設を整備します。
- ③ ユニバーサルデザインの考え方に基づき、誰もが使いやすく、安全・安心に利用できる学校施設を整備します。
- ④ 省エネルギー化に努め、自然環境の負荷の低減に配慮し、脱炭素社会の実現を目指した学校施設を整備します。

- ・防犯対策
- ・ユニバーサルデザイン
- ・建物のZEB（Net Zero Energy Building）化の推進

生活

○感染症対策の教訓を踏まえた新たな学校づくり

- ① コロナ禍における教訓を活かし、学校生活における新たな生活様式に対応するため、衛生環境に十分に配慮した学校施設を整備します。
- ② 感染症予防対策として、各室の換気を十分に行うため、空気の循環に配慮した学校施設を整備します。

- ・トイレ環境の改善

学び

○特別な支援が必要な児童一人一人の能力を最大限伸ばすため、適切な支援が行うことができる学校づくり

- ① 通常の学級、通級による指導、特別支援学級といった、個に応じた「多様な学びの場」を確保する学校施設を整備します。
- ② 個に応じた指導の充実が図れる教育環境を確保する学校施設を整備します。
- ③ 特別な支援が必要な児童にとっても、落ち着いて過ごすことができる空間となる学校施設を整備します。
- ④ 児童が、自分たちの居場所と感じられるような学校施設を整備します。

- ・たけのこ学級
- ・校内通級教室
- ・不登校児童対策（ステップルーム）
- ・**子どもたちの居場所**

安心

○食育の重要性に鑑み、食物アレルギー対策を基軸とし給食環境の充実を図る学校づくり校づくり

- ① 引き続き自校方式による学校給食を維持し、安全・安心かつ栄養バランスのとれた魅力ある美味しい給食の提供を行う学校施設を整備します。
- ② アレルギー専用調理室を整備するとともに、作業工程表、作業動線図に沿った、正確かつ安全な調理ができる給食室を整備します。

- ・安全で安心な給食の提供
- ・工事期間中の給食提供（保護者からの声）

## ○地域コミュニティの拠点となる学校づくり

共創

- ① コミュニティの核として、豊かな市民文化を育み、親しみが持てる学校施設を整備します。
  - ② 周辺環境と調和した建物とするなど、周辺の住環境に配慮した学校施設を整備します。
- 地域の人たちと連携・協働していく活動・交流の拠点の場
  - 校庭の砂埃対策

## ○地域開放を前提とし、地域との関わりを持った学校づくり

共創

- ① 地域と一体となって学校の特色や魅力をさらに高められるよう、多様な使い勝手に配慮した学校施設を整備します。
  - ② PTAや地区協議会・地域学校協働本部などの活動はもちろん、学校開放運営委員会を始め、学校開放利用団体の方にも使いやすく、活動がさらに充実するような環境となる学校施設を整備します。
  - ③ 学校運営と地域開放の両立が図れるよう、わかりやすい導線計画やゾーニング計画とした施設整備とします。
- 開放とセキュリティー（防犯面）の両立

## ○避難所施設として防災機能・体制強化を図る学校づくり

安全

共創

- ① 日常的に使用する施設機能を、災害時等の非常時においても活用するフェーズフリーの概念に基づく学校施設を整備します。
  - ② 災害時には避難場所の拠点として、学校施設の効率的な活用や、地域住民が安全に避難でき、安心して過ごすことができる施設を整備します。
  - ③ 体育館や防災備蓄倉庫等の配置は、浸水を想定した建物計画とします。また、防災備蓄倉庫は平時における管理のしやすさにも配慮します。
  - ④ プールの水は、常時、消火用の消防水利として指定しているほか、災害発生時におけるマンホールトイレの排水に利用できる計画とします。
- フェーズフリー
  - 水害における浸水対策
  - 防災倉庫の管理

## ○学校施設以外の公共施設との施設複合化を進める学校づくり

- ① 長期的な視点に立ち、児童数の減少により発生する余裕教室の活用について、将来的な学校教育活動以外での利用を視野に入れた学校施設を整備します。
- ふれあい給食、学童クラブ、あそびバ（既存施設）
  - 図書館、地域福祉センター（地域要望）
  - 学校プール（屋外プール）の在り方
  - 社会環境の変化に対応可能な柔軟性のある空間構成